

第3回室蘭市子ども・子育て会議会議録

日時 平成26年 3月24日(月)午後6時~午後7時00分

場所 室蘭市役所2階大会議室

出席委員 10名

澤田(乃)委員 中村委員 小笠原委員 小椋委員 澤田(光)委員 今井委員 小倉委員 鈴木委員 澤田(宏)委員 荒木委員

出席職員 8名

國枝保健福祉部長 弘瀬子育て支援課長 高橋(子育て相談・保育所統括)主幹 星(次世代・母子児童相談)主幹 佐藤保育係長 本吉母子児童係長 松尾主任 沼山主任

- 1 開会
- 2 議事
(1) ニーズ調査の実施結果について
- 3 その他
- 4 閉会

配布資料

- ・室蘭市子ども・子育て支援事業計画策定のためのアンケート調査集計報告書(資料1-1)
- ・室蘭市子ども・子育て支援事業計画策定のためのアンケート<単純集計概要報告書>
(資料1-2)
- ・今後のスケジュールについて 資料2

会 長 定刻となりましたので、只今から第3回子ども・子育て会議を開催いたします。本日は年度末の大変ご多用な時期にもかかわらず、多くの委員の先生方にご参加いただきましたこと、まずもって厚くお礼申しあげたいと思います。

それでは、委員の出欠について、事務局より報告をお願いいたします。

事務局 本日は、岩本委員、吉田委員、岡垣委員、伊藤委員、山田委員、小鷹委員が所用のため欠席となっております。委員総数16名中10名が出席しておりますので、子ども・子育て会議条例に規定の会議開催の要件を満たしておりますことを報告いたします。

また、本日はニーズ調査の結果についての議案がありますので、この業務の委託業者さんであります、(株)ぎょうせいさんの担当の方に同席していただいております。

会 長 それでは議事に入りたいと思います。

(1)「ニーズ調査の実施結果について」事務局より説明をお願いします。

(株)ぎょうせい (株)ぎょうせいで主任研究員をしております小林と申します。今回室蘭市さんの担当をしております。今日はオブザーバー参加させていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。お手元に集計報告書を事前配布されていると思いますが、今回は今日お配りしました概要報告書でご説明していきたいと思ひます。詳細についてはそれぞれの集計報告書をお読みいただければと思ひます。

早速説明に入ります。今日は三つのこととお話をしたいと思ひます。まずは、子ども・子育て計画の概要について簡単に説明します。詳細については、前々回の会議で説明しておりますが、今の大きな流れから説明します。平成24年度に子ども・子育て関連三法成立、平成27年4月から新制度がスタートする流れになりまして、平成25年度は、子ども・子育て会議の設置、子育てに関するニーズ調査の実施、これが今回行ったアンケート調査になります。提供保育、提供区域、ニーズ量の見込み、供給体制の確保が今年度のものになります。それをもって、平成26年度は子ども・子育て支援事業計画の策定という大きな流れの中で今進んでおります。アンケートについてですが、大きく分けて二つの項目で成り立っています。約80%の項目が国・北海道の設問で成り立っています。残りの20%が室蘭市独自の設問となっております。そのアンケートを12月に行いまして、その結果を今ご報告している形になります。

では、結果概要報告書の1ページ目、まず、調査概要についてです。地域については室蘭市全域で行いました。調査対象は、平成25年12月16日時点で室蘭市の住民基本台帳に登録されている就学前児童、小学生児童が属する世帯で、標本数については、未就学児童1,035、小学生児童1,121。調査方法は、未就学児童が属する世帯に関しては、無作為抽出と保育所で直接配布。回収は、無作為抽出は郵送での配布回収、保育所での配布は市が直接回収しました。小学生児童が属する世帯は、学校での配布、郵送にて回収という形で調査を行いました。調査期間は、平成25年12月20日から平成26年1月9日を調査期間としました。回収結果については、そちらの表にでているとおりの標本数と有効回収数となっています。調査概要については以上です。

続きまして、2ページ目、就学前児童調査報告です。まず、お子さんとご家族の状況についてのアンケートの結果ですが、回答者の91%が母親、回答者の88%が配偶者がいる、子育てを主にしている人は58%が父母両方、38%が主に母親という結果が出ています。保護者の就労状況についての設問については、父親の86%がフルタイムで就労し、母親の26%がパート・アルバイト等、25%がフルタイムで就労しているという数字が出ています。パート・アルバイト就労している父親はフルタイムへの転換を希望しており、実現の見込みがある及び実現は難しいと考えているが同数の33%、また、母親については55%が今後も仕事を続けたいという数字が出ています。就労していない父親については50%が直ぐにでも、若しくは1年以内に就労したいと考えている。また、就労していない母親のうち48%が一番下の子どもが成長したら就労したいと考えていると答えています。そのうち32%の母親が一番下の子どもが7才以上になったら就労したいとうふうな数字が出ています。現在就労していない父親の就労希望としては、フルタイム、パート・アルバイトが同数の33%。また、母親が今後希望する就労形態は、67%がパート・アルバイトという数字が出ています。平日の定期的な教育・保育事業については、幼稚園や保育所等の定期的な教育・保育事業を利用しているは69%、利用している施設としては、認可保育所が60%、幼稚園が29%、利用者の73%が週5日利用しているという数字が出ています。利用している場所としては、98%が室蘭市内という数字が出ています。今後の利用意向としては、94%の人が利用したいという意向で、94%の人は室蘭市内を希望しているという数字がでています。他の市町村で利用したいという理由は勤務先があるという答えが36%ありました。教育・保育事業を利用していない理由は子どもがまだ小さいためが45%、利用したい年齢としては3歳が56%という数字が出ています。定期的にご利用したいという希望については、認可保育所が55%、幼稚園が54%、幼稚園の預かり保育が31%、認定子ども園が16%などという数字が出ています。子育て支援事業の利用状況については、地域子育て支援拠点事業を利用したことがあるが46%、94%の方が室蘭市内での利用という数字が出ています。子育て支援事業の利用希望としては、病児・病後児保育が43%、地域子育て支援拠点事業が40%という数字が出ています。続きまして、地域の子育て支援事業について、76%が利用していないと答えています。新たに利用したり利用日数を増やしたいとは思わないが62%、利用していないが今後利用したいは21%という数字が出ています。続きまして、土曜・休日・長期休暇中の教育・保育事業の利用希望について、土曜日の定期的な利用については、利用する必要はないが57%、月に1~2回利用したいが23%という数字が出ています。日曜・祝日の定期的な利用については、利用する必要はないが75%、月に1~2回利用したいが17%という数字が出ています。幼稚園を利用している人のうち、夏休みや冬休みなどの長期休暇中は利用する必要はない15%、週に数日利用したいが10%という数字が出ています。続きまして、病気やけがの際の対応についての問いについては、定期的に教育保育事業を利用している人のうち46%の人が病気やけがで利用できなかったことがあると答えている。その場合の対処方法として、母親が休んだが77%、親族・知人に子どもをみてもらったが48%、父親が休んだが22%、病児・病後児保育施設の利用に関しては、利用したいが55%、利用したいと思わないが42%という数字がでています。利用したいと思わない理由については、親が仕事を休んで対応するが5

5%、他人にみてもらうのは不安が31%、という数字が出ています。不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用については、教育・保育事業の不定期利用については86%が利用していないという数字が出ています。利用希望では51%が利用する必要がないと答え、43%が利用したいと考えているという数字が出ています。利用したい理由としては冠婚葬祭や通院が72%、買い物などの私用やリフレッシュが66%という数字が出ています。子どもを泊りがけで家族以外の人に預けたことがなかったと答えた人は76%と多数を占めた。あったと答えた人は22%だった。預けた人の対処方法としては、親族・知人にみてもらったが83%と多数を占め、子どもだけで留守番をさせたが少数で2%ありました。続きまして、小学校就学後の放課後の過ごし方についての問いについてです。低学年の放課後の過ごし方として、自宅が16%、児童クラブ等が15%、習い事が14%という数字が出ています。高学年の放課後の過ごし方として、自宅が13%、習い事が11%、児童クラブ等は6%に減少している。続きまして、家庭の子育てと子育て環境については市独自の設問です。父親の育児参加の問いについて、よくしているが45%、時々しているが37%。家事の分担においての問いについては、男女互いに協力し分担して行くべきと考えている人が68%、17%の人はどちらかといえば女性が行うべきと答えている。子育てに関する負担について、やや不安や負担を感じるが50%、あまり不安や負担を感じないと答えたのは35%。子育てに関する悩みとしては、経済的な不安・負担が33%、自分の時間が持てないが28%、子どもの勉強や進学が25%、子育てで疲れるが22%、子どもとの時間が十分持てないが21%、特にないと答えた人が14%いた。子育てをする上で近所や地域に望むことは、子どもが危険な目にあいそうな時は助けや保護をしてほしいが75%、子どもが良くないことをしているのを見たら注意してほしいが57%、子ども連れで施設や交通機関を利用するときに困っていたら手助けをしてほしいが31%、出会った時に声を掛け合うなど子どもに関わってほしいは27%という数字が出ています。地域の子育て環境としては45%の人がまあまあ子育てしやすいと思うという数字が出ています。室蘭市の子育て環境や支援の満足度は、3が中間ですが、こちらが38%、2は30%、低い数字の2の部分は14%、1が13%。室蘭市の子育て支援に期待することとしては、子連れでも出かけやすく楽しめる場所を増やしてほしいが71%、保育所や幼稚園に係る費用を軽減してほしいは61%、安心して子どもが医療機関にかかる体制を整備してほしいが32%、親子が安心して集まれる身近な場所やイベントの機会が25%、企業に対して職場環境の改善を働きかけてほしいは19%という数字が出ています。以上までが就学前児童の調査結果の数字です。

続きまして、小学生の世帯についての調査結果になります。お子さんのご家族の状況について、回答者の92%が母親、回答者の85%は配偶者がいると答えている。子育てを主にしているのは父母両方が56%、主に母親は40%、保護者の就労状況について、父親がフルタイムは84%、母親は33%がパート・アルバイト、26%がフルタイムという数字が出ています。約8割の方が、日常的又は緊急時に子どもをみてもらえる祖父母等の親族がいると答えており、知人・友人がいると答えた人は20%、14%の人はいずれもいないと回答している。祖父母等の親族に子どもをみてもらう場合、安心してみてもらえるが56%、心苦しいと感じている方は28%、身体的不安を感じている方は20%。友人・知人に子どもをみてもらう場合、安心して

みてもらえるが55%、心苦しいと感じている方は23%という数字が出ています。子育ての上で気軽に相談できる人がいると答えているのは87%、相談先としては友人・知人及び祖父母等の親族が同数で81%、学校の先生が31%。続きまして、放課後の過ごし方について、児童クラブ等は65%が利用していない、34%が利用していると答えている。利用者の40%が週5日利用し、利用の理由としては現在就労しているが85%でした。児童クラブ等の日曜の利用に関しては、利用を考えていないが74%。今後の児童クラブの利用意向については、今後も利用しないが78%、利用したいが22%。利用したい理由としては、就労予定がある・求職中が38%、現在就労しているが29%。低学年のお子さんがある方の4年生以降の放課後の過ごし方として、児童クラブ等が30%、クラブ活動などの習い事が25%、児童館が24%。また、小学6年生まで児童クラブ等を利用したいは77%、児童館を利用したいも77%。小学生の子ども全体の放課後の過ごし方としては、友人と遊ぶが50%、習い事が33%、家で家族と過ごすのが24%、児童クラブ等が20%という数字が出ています。続きまして、家庭の子育てと子育て環境について、ここは室蘭市独自の設問になっています。父親の子育てへの参加は、よくしているが38%、時々している37%。家事の分担においては、男女が互いに協力し分担して行うべきと考えている人が67%で多数、どちらかと言えば女性が行うべきと考えている人は16%。子育てに関する不安や負担については、あまり不安や負担は感じないが44%、やや不安や負担を感じるは40%。子育ての悩みとしては、子どもの勉強や進学のことを53%、経済的な不安や負担が大きいのが36%、子どもとの時間が十分に持てないが16%、自分の時間十分に持てないが16%、子どもの知的・精神的な発育が16%、特にないが13%。地域の子育て環境として、まあまあ育てやすいと答えた方が52%。子育てをする上で近所や地域に望むことは、危険な目にあいそうなときは手助けや保護をしてほしいが78%、子どもが良くないことをしているのを見かけた時は注意してほしいが74%、出会った時に気軽に声を掛け合うなど子どもに関わってほしいが31%。室蘭市の子育て環境や支援の満足度については、約45%が概ね満足と答え、中庸が約4割となっている。室蘭市の子育てや支援に期待することとして、子連れでも出かけやすく楽しめる場所を増やしてほしいが約59%、安心して子どもが医療機関にかかれる体制の整備が47%、保育所や幼稚園にかかる費用を軽減してほしいが28%、親子が安心して集まれる身近な場所やイベントの機会がほしいが24%、企業に対して職場環境の改善を働きかけてほしいが17%という数字が出ていた。以上が室蘭市での数字結果でした。

ここからは、私どもの調査結果と北海道全般の動きを口頭でご紹介します。

就学前についてですが、就労していない母親は子どもが成長したら働きたいと思っており、希望の就労形態はパート・アルバイトが圧倒的に多い。今後の教育・保育事業については、自分の住んでいる地域内での希望が圧倒的に多い。地域の子育て支援事業を利用していない人の割合は意外に多いという結果が出ている。土日祝日に定期的な教育・保育事業を利用する必要がないと思っている人は、利用したいと思っている人より上回っているという傾向が出ています。けがや病気で幼稚園・保育所を利用できなかった人は、母親が休んで対応している割合が圧倒的に多いという傾向が出ている。病児・病後児保育施設を利用したいと思わない理由は、他人にみてもらおうの

が不安、親が休んで対応するが大半という数字が出ている。不定期の教育・保育事業は利用していないという人の割合が以外に多いという傾向が出ている。

続いて、小学生についてですが、小学生の傾向として三つ出ている。小学生になると母親の就労割合が増えているという傾向が出ている。日常的・緊急時に子どもをみてもらえる祖父母等親族や友人知人がいる人の割合も小学生になると高いという傾向が出ている。子育ての悩みを気軽に相談できる人がいる割合は、友人・知人・祖父母等が多数を占め、就学前・小学生の全般に言えることは、父親の育児参加の割合高いという数字が出ている。家事分担については、男女が互いに協力し分担して行うべきと思っている人が多いという傾向が出ている。また、近所地域に望むこととして、子どもが危険な目にあいそうな時は助けてほしい、子どもが良くないことをしているのを見たら注意してほしいという回答が傾向として高い数字が出ている。以上が数字から読み取れる部分での結果報告になります。

会 長 ご説明ありがとうございました。只今の説明について、質問・意見等はありませんか。

委 員 質問ですが、小学生のところで、児童クラブ等と児童館とありますが、この違いを教えてください。

事務局 放課後児童対策は、一般的に児童クラブが他市町村における放課後児童対策で代表的なものです。本市においては、児童クラブのほかにスクール児童館があります。スクール児童館は学校に設置しておりまして、児童館と児童クラブの機能を兼ね備えたものがスクール児童館で、児童クラブも学校に設置してありますが、いわゆる学童保育というもので、放課後お子さんを預かる事業です。スクール児童館は本市独自の施策となっております。

委 員 ありがとうございました。

会 長 よろしいですか。そのほかありませんか。

委 員 伺いたいのですが、調査対象ですが、前回の会議の内容に戻るような感じはしますが、室蘭市の就学前の児童のいる世帯と小学生児童のいる世帯、おおよそで結構ですが、数字今わかりますか。

事務局 大まかですが、一世代600人前後で、就学前ですと3,600人、小学生も同数3,600人位です。大まかな数字です。

委 員 もう一つ、調査方法として、保育所については3ヵ所指定していた。幼稚園、企業内保育所とか、小規模保育所とか、その他のところについては無作為選出の形をとっているのですが、この根拠はどのようなところか。

事務局 小学生については、まず地区別にバランスを考慮して、特定の地域に偏らないようにした。就学前については、保育所については学校と同じ考えで、地域に偏らないように選んでおります。保育所に通っていないお子さんもいらっしゃいますので、そちらのほうは無作為抽出ということで選定し、調査票を郵送した。

委員 この結果をみても非常に回収率が低いですね。調査のやり方にちょっとひっかかる。例えば、私は幼稚園の立場ですが、幼稚園は12月から1月であれば学期末の最終的な行事があり、このような時に父兄に幼稚園側から趣旨を話をし、少しでも子どもに良い教育環境を与えられるような、それをお願いするためにも、もう少し幅広く調査してほしいなという思いがする。それからもう一つ、これは事前に配っていたので見たのですが、ページでいうと22、23、29、47、49ページと非常に無回答が多い。これはどういうことなのかと考えたときに、設問に何か理由があったのかという気もしないでもない。色々な環境の中での位置している子どもたちですから、それをどのように設問に対して親が判断しているのか、こんなに無回答が出てくるのか、何か理由があると思うのですが。事務局のほうとしては、そのようなところをどのように判断しているのか。

事務局 回収率についてですが、2月の会議の時に速報で説明しましたが、年末年始でスケジュール的に厳しかった。子ども・子育て会議の日程もあり、今日の結果集計に間に合わせるということで、止むを得なくこのようなスケジュールになってしまった。次回以降は余裕を持って回収率が上がるような方法で取り組んでいきたいと考えている。次に、無回答と申しますと。

委員 例えば22ページの子育て支援事業の回数等、約70%が無回答になっていますね。

事務局 設問が多いということに関して、大まかに申し上げますと、この結果は道を経由して国へ報告され、国・道の計画策定に使われるニーズ調査でもある。そちらのほうで指定された項目が多いということで、どうしてもこのようなボリュームになってしまったということがある。無回答のことにつきましては、ぎょうせいさんのほうからお願いします。

会長 ぎょうせいさんお願いします。

(株)ぎょうせい アンケートのし方、数字の見方を補足で説明させていただきます。まず前提になっているものが、国のほうから量について聞きたいというところから始まっている。設問については、国からひな形がありまして、それを使いながら設問を設計している。約30問以上あり、時間は30～40分位かかることが判っていましたので、本当はまち独自の設問をたくさん入れてアンケートをするべきなんです。全体の量と保護者の方の負担をなるべく軽減したいという部分と、回収率を上げたいという二つの部分から、国のものは外すことはできませんので、それは確実に押さえながら、まちの実情にあったものを聞くという形の設計になっています。数字の面について説明を加えると、まず報告書のほうで、1ページ目をめくると、回収配布状況が真ん中の表に

ありますが、ここに回収数というのがあり、これが全ての母数となり、一番キーになるもの。ただし、511人の方のうち、設問について色々分岐をしまして、対象になる人は答えてください、対象でない人は答えなくてくださいと分岐がされている。本来だと全部に対し答えなければならなのですが、人間がやっていることなので、抜けていたり、回答が読めないという場合もあります。それに関しては、回答しなくてもいい人を除いたりとか整合性を持たせるような形をとっています。もともとの集計に関しては、全てに関して入力されていますが、それにすると論理的に合わない部分が出てきますので、各グラフの右上にnの511とか、先ほどの22ページのところですと、地域子育て支援事業の週あたりの利用回数で、n91と記載されていますが、nは回答者数のことを指しています。91人のうち無回答が69.2%というかたちになりますので、全体の511人の7割が無回答ということではなく、511人のうち回答した人が91人いて、91人の内訳がこのような数字で出ているということです。決して母数511人の7割が無回答ということではありません。回答している人の中の数字ということになります。となりの23ページになりますが、地域子育て支援事業の月当たりの利用回数、次の市の類似事業の週あたりの利用回数は、回答者数は23人とかなり少ない。少ない数字の中での割合なので数字は高くなる。数字だけ追うと非常に多いようにみえますが、母数からみると凄く少ない人数になり、圧倒的多数が無回答ではないことを補足させていただきます。全般的にこのアンケート結果もそうですが、基本的に数字で出ています。アンケートの結果については、この数字で十分信頼が得られる数字が出ていますので、それについては問題はないと考えている。数字はそれぞれnの77とか、nの1だと100%の回答が出ているが、511人の100%が回答しているということではありません。回答者数が1の場合100%という数字が出ていますので、そこは注意して数字をみていただければと思う。補足で説明させてもらいました。

会 長 ありがとうございます。

委 員 関連して2点ある。グラフの見方ですが、今説明のあった23ページの月当たりの利用回数、週あたりの利用回数は91、数は23ですが、これ以外の方は利用していないということで考えてよろしいですか。23人以外は利用していないと。利用しているが23人中34%が1回で、無回答があると押さえで良いのか。私は無回答はゼロなのかなと思ったがそれでもなさそうなので、それをご説明いただければと思う。

もう一つ、資料の見方ですが、国とか道の調査を基にしているとしたら、私たちとしては国・道の状況がどうなっているのかということ片手に持ちながら、室蘭市はどうなっているのかと比べながら考えることが必要なのかなと思うが、比べるようなことは可能なのか。

(株)ぎょうせい 23ページの見方についてご説明します。先程の更に追加で説明します。511人中23人しか利用していないのかということですが、そうではない数字です。これについては、アンケート中に23人の人が回答しているという数字になりますので、実際的な数字ではありません。利用している人が23ではなく、回答している

人が23人いたと数字です。読み取り不明なものもあり、それについては集計ができず弾いています。そういう数字も計算に入れてこの数字が出ていますので、回答している、していないというのは原表をみないと分かりませんが、読み取れないもの含まれており、そういうものも一部分あり、こちらの数字が成り立っている。実際の数字を見るには、元の数字を追いかけていけないとわからない、見れない部分はある。

もう一つですが、国・道・市という話がでたが、国が必要としているのは量の見込みの数字が欲しい。アンケートの設問については、量の見込みが見れるものを求める回答がほとんどです。ただ、それでは市の実情が分からないので、市独自の設問を入れ、市独自の設問はこの裏側で一緒に動いている次世代育成支援計画の柱になるものを主に抽出してアンケートの設問を入れてある。プラス市の実情がわかる設問を踏まえて就学前、小学生にそれぞれアンケートをとる形になっている。国との比較をしながら計画を進めるべきかどうかということですが、僕らはあくまで黒子ですので、皆様方が今ある数字を見ながら、傾向も踏まえて考えていただきたいというのが僕らの意見です。

もう一つ、資料はないですが、アンケートの項目に自由意見という項目があります。これに関してはすごく私的な情報がたくさん含まれているので、今この場でご紹介してもよろしいでしょうか。

会 長 個人が特定されたり等というものでなければ、ご紹介いただいて構いません。

(株ぎょうせい) 今、国・道・市というお話が出ましたので、自由意見の部分があります。こちらについてはすごく私的な意見、また生の声そのままですので、委員の皆様には口頭でご紹介します。

まず、就学前の自由意見です。

あったらいいなと思う子育て世代の交流イベントなどの設問に対しては、交流会・イベント・居場所の3つの項目で意見がありました。その中からいくつか抜粋で紹介します。イベントに関しては、ママのリフレッシュ、悩み相談等、おじいちゃんおばあちゃんから昔の遊びを教えてもらうイベント、自然を利用した子育てイベントの充実、電車やバスに乗る機会が少ないので公共機関を使ったイベント。居場所については、雨の日や冬で寒い日は外遊びをさせてあげられない、屋内で遊べる場所が少ない。市の子育て支援対策については、医療支援、子育て支援についての意見が多数あった。市の情報提供については、科学館のイベント情報を子どもが園から持ち帰ってくれるがとても便利、水族館なども含めた子ども向けのイベント情報のプリントを一枚にまとめて配布して欲しい。良いと思う、むろらん大好きなのでより良い室蘭づくりをお願いします。ホームページについての意見がいくつかありました。子育て情報のメールは楽しみ、もっと増やして欲しい。ホームページは中々見ない、市政だよりなどに子育て応援ページを作ったらどうか。という意見がありました。

続きまして、小学生の自由記入の設問でいくつかあったので紹介します。あったらいいなと思う子育て世代の交流・イベントなどでは、同じ小学校に通う予定の他の幼稚園や保育園の子や母の交流会。親子体験教室。フリーマーケット、子ども用品

や本、マンガ等の交換リサイクル市。室蘭キッズタウンすごく良かったので毎年あったら良いと思う。学習イベントに関するものがいくつかありました。市の子育て支援対策については、医療支援、子育て支援についての意見がありました。市の情報提供については、先ほどと同様に広報紙での周知とホームページでの周知を望む声がいくつか出ています。その中からいくつかご紹介します。広報しかないので、子育て世代と老人と年齢を分けて情報を増やして欲しい。保健センターに行かないと見れないのではなく全戸配布できるように地区の情報を集めて欲しい。広報は良く見ている、メール配信も見ている。前の市長さんや今の市長さんにも良くしてもらってありがたいです、あいくるにも通わせてもらいました。以前より市政だよりとかが親子向けになっていて見やすい。以上のような意見が多数ありました。基本的には今あげている数字と自由意見から出てくる課題を踏まえて計画を作っていくべきと考えている。ただこれは国の方針ではありませんので、皆様方が4月以降計画について意見を出していただき、アイデアを出していきながら計画を作っていくのが本来の姿ではないかと思っています。以上を回答としたいと思います。よろしいでしょうか。

委員 話がかみ合っていないんです。私が質問しているのは、業者さんは業者さんの立場があるから、そこまでして国と比較して表現するような形での発注を受けていないということで理解しますが、これは室蘭市ですから、室蘭市のほうで国や道のデータを私たちに提供いただける可能性があるのかという形で教えていただければと思う。もし提供いただけるのであれば、比較しながら室蘭市の状況を把握できるのかなという観点で質問した。

会長 今回の件につきまして、事務局からお願いします。

事務局 国・道の関係ですが、ほぼ全ての市町村でこのニーズ調査が行われておりまして、都道府県に上がって、国でも集計されることとなります。そのデータが都道府県なり市町村に提供をいただいて、比較するとか参考にできればと思っています。そのようなデータがききましたら、機会をとらえ室蘭市がどのような位置にあるのかというのはこれからの作業の参考にしたいと考えている。

委員 わかりました。国等が今一斉にやっているんですね。

会長 今やっている最中です。

委員 過去に国や道がやっていたりして、その中の項目を80%ということではなく、今やっている最中ということですね。わかりました。

会長 事務局お願いします。

事務局 参考までにお話させていただきたいのですが、今回の子ども子育て支援法によります子ども・子育て支援事業計画は、今回初めてですが、前回、先月の子ども・子育て

て会議の議題の一つの次世代育成支援行動計画のときにも同じようなニーズ調査を行っております。その時のニーズ調査は根拠法令も違いますし、ねらいも少し違うので、単純比較はできない。このような項目で比較するには、今一斉に行われているニーズ調査との比較が必要だということで補足説明させていただきます。

会 長 ありがとうございます。よろしいでしょうか。これはもう第1回目の時から申し上げておりますとおり、H24年度の8月に公布されました子ども・子育て関連三法に基づいて、H25年大慌てで国が出して、都道府県と各自治体がこのニーズ調査をやっているものでして、総じて私の立場で言わせていただければ、この今後出てくるものをたたき台としながら、他の自治体や都道府県・国全体ではどうかというものを、時間の流れ、推移の経過の中で出てくるでしょうし、それを合わせて見ながら、それでもこのまちではどうかと、それぞれから出てきている委員の諸先生方のご要望等、これから積極的に次年度の会議でそういったものを導き出していければと考えています。今日はまず入り口のところの数字の集計の概要はどうであったかの速報みたいな、速報の数値をここで紹介させてもらう場所の位置付けでお取扱いいただければと思う。

会 長 そのほかご意見等ありませんでしょうか。ほかになければ事務局からはありませんか。

事務局 資料2のスケジュールですが、第1回の会議から変わったところですが、本日の会議「第3回子ども・子育て会議」を追加になっております。また、右の列になりますが、北海道への報告の期日が示されましたので、これを追加しております。

会 長 ほかによろしいでしょうか。只今のスケジュールですが、このように、公が示したスケジュールはほとんど変更がないのですが、変更が生じてきている現状があります。それくらい子ども・子育ての関連三法公布以降のスケジュールが非常にタイトな状況で進んでいることが、今日のこの資料2からも推し測ることができるのではないかと考えております。

会 長 ほかには何かございませんか。よろしいでしょうか。次回の会議でも諸々を含めて建設的に、室蘭の子どもの子育てについて、ここで議論していければな思っています。それでは、ほかにはないようですので、次回の会議は、事業計画の原案ができる頃をひとつの予定としていきます。これで本日の会議を終了いたします。長時間に渡りまして、誠にありがとうございました。